

一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員

Q 晴雲、赤名トンネル整備を

国道54号は本町にとって、重要な生命線の一つである。トンネルの前後に急こう配があるため、年に数回通行不能になる。この時に町民の身に重大な問題が発生したとすれば、人命が危険にさらされる。

自動車専用道路尾道松江線の4車線化を要望する声がかまっている中で、早急に国道54号の2つのトンネル整備を検討のテーブルへのせるべきだ。



晴雲トンネル

A 国道54号の重要性を訴えていく

町長 山崎英樹

国道54号は、尾道松江線が開通して以来、厳しい状況にある。

晴雲、赤名の両トンネル改修はこれまででも機会あるたびに再三要望しているが、国の考えは、費用に対して効果が薄いとされている。

改修の要望と並行して、50年以上経過するトンネル老朽化対策や、サイクリングロード指定路線として自転車誘導灯など、全ての利用者が安らく、「安全」の確保について要望を重ねている。

中山間地域としての費用対効果、数値、考え方、項目を示し、国へ提案していく。

Q 人材育成は幼児期から

三歳から育つまでは小学校で学ぶための基礎を築きつつ、さらに脳の受容する習慣(様々な知識を受け入れる)を育てることが大切だ。

「三つ子の魂百まで」という格言があるが、出生少し前から二歳半くらいまでの発達過程に十分な愛情とともに忍耐力を制御することを体得すれば、キレにくい子供になるともいわれている。

三歳から育つまで、豊かな人間性を育てる新たなカリキュラムを加え、幼児教育にさらに力を入れるべきと考えるがどうか。

A 幼児期教育の充実を図る

町長 山崎英樹

保育所での早期教育は、勉強よりも生活面の基礎づくりが小学校入学後の学力向上に繋がると考え、一人で日常生活ができるよう、また遊びなど多様な経験を通して心と体の基礎や学習能力が培われていくように保育を行なっている。

ICT教育でプレゼンテーション能力を養うよう計画しており、保小中高一貫教育の中で、小学校と連携を進める。さらに幼児期教育の研究や提案を受け、保育体制の確立を図っていく。



保育所

一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

Q 来島保健センターの整備を

来島保健センターのトレーニングルームには、数種類のトレーニング機器が設置されており、老若男女問わず、日々、健康維持・体力増強・美容に励んでいるが、エアロバイク1台と、筋肉トレーニング用器具が故障している。

当施設には月2回指導員が来て、個別にトレーニングメニューを作って指導しているが、器具が少ないため、順番を待ちながら行うという状況である。

また、この保健センター自体が雨漏りのため、二階天井が一部破損し、漏電、崩落も危惧されている。

今後のトレーニング機器の更新・増設を含めた、活用・運営、さらに保健センターの雨漏りの対処を問う。

A 活用は意見を聞きながら

町長 山崎英樹

元気で健康的な生活は、本町のまちづくりの大きな柱の一つであり、高齢者を中心に「長生き体操」を取り組んでいる。壮年期、青年期の女性、男性にとつては、トレーニングルームの活用は重要である。

故障したマシンは、安全性を含めて修理の手配をしている。増設は、部屋の広さに制限があり難しい。

保健センターの雨漏りは、屋根の構造上、一部分の修理では効果がないとの業者の指摘がある。センターの活用は、色々な視点で意見を聞きながら考える。



保健センターのトレーニングルーム

Q 改正年金法に 対する対応は

年金法が改正された。これにより、年金受給に必要な資格期間が25年から10年に短縮され、全国で約64万人が受給の見込みだ。

年金は請求主義で、未申請、正規の受給額を受け取っていないなど、不利益が生じている状況も考えられる。本町として新たな受給者、不利益な立場にある人に対し対応すべきでないか。

A 町広報誌などで 周知

町長 山崎英樹

年金は老後の生活を営む上で大きな糧であり、不利益が生じてはならない。

日本年金機構は来年2月以降、受給対象者に必要な書類を送付予定である。

町広報誌などで、改正制度の内容や年金相談会の周知をしたい。必要と判断すれば出張年金相談会を実施するよう要望する。